

## 令和2年度「知事と市町長の1対1対談」(玉城町)概要

- 1 対談市町 玉城町 (辻村 <sup>つじむら</sup> 修一 <sup>しゅういち</sup> 玉城町長)
- 2 対談日時 令和2年7月28日(火) 10:00~11:00
- 3 対談場所 cafe & space 七十二候
- 4 対談項目1 「ウィズ/アフター コロナ」のまちづくりについて  
(1) 健康づくりの推進について  
(2) まちの元気回復について
- 対談項目2 七十二候の取組紹介
- 5 対談概要

### 対談項目1 「ウィズ/アフター コロナ」のまちづくりについて

#### (1) 健康づくりの推進について

(町長)

玉城町として「健康づくり」を最重要政策とし、新型コロナウイルス感染症対策をとりながら、「健康づくり」をより一層推進していきたいと考えています。県が令和元年度に「三重とこわか県民健康会議」を設置し、「三重とこわか健康立県」を宣言したことについて、共感しています。

外出自粛期間中に介護申請や認知症患者が増えており、高齢者等の体力低下や基礎疾患の重症化を危惧しています。町民の健康を回復・増進するため、健康状態を計測する機器を導入しました。さらに、町内企業との連携も進めることで、町全体として、健康づくりの取組を進めていきたいと思えます。

高齢者だけでなく、若い世代の方々にも生活習慣・食習慣・運動習慣の大切さを伝え、町全体で「健康づくり」に取り組んでいきたいと考えています。

(知事)

新型コロナウイルス感染症の傾向として、基礎疾患を持つ方は重症化リスクが高いとされています。10代、20代の若い世代の感染者が増加し、そこから広い世代に感染が拡大すると、基礎疾患を持つ方や高齢者は重症化してしまう可能性があります。そのため、生活習慣病等の基礎疾患を予防していくことが重要であり、新型コロナウイルス感染症と共存せざるを得ない状況において、健康づくりは大変重要です。

県では、令和元年度に「三重とこわか県民健康会議」を設置し、地域での健康づくりを応援する取組を進めるとともに、企業における健康経営の取組を促進しています。

企業における健康経営の取組を促進するため、令和2年1月に「三重とこわか

健康経営カンパニー（ホワイトみえ）」認定制度を創設し、令和2年7月に127企業を認定しました。その中の約20企業に補助金を交付して先進的な取組を行っていただき、これをモデル取組として横展開していきたいと考えています。

新型コロナウイルス感染症の重症化リスク因子の一つである、糖尿病に係る対策として、市町や医師会の皆さんとともに研修会等を行っています。

さらに、健康という観点においては、歯と口腔の健康を守ることが重要です。玉城町においては、小学校における「フッ化物洗口」の実施に向けて準備を進めていただき、ありがとうございます。

また、ウェアラブル端末を活用した健康状況の「見える化」を進めるなど、デジタル技術を活用し、健康づくりの取組を進めていきたいと思えます。

若い世代の方々に、早くから継続的に健康づくりに取り組むことが重要であることを伝えていきたいと思えます。

## （2）まちの元気回復について

（町長）

新型コロナウイルス感染症対策をふまえ、どのようにまちの元気を回復・発展させていくかは、玉城町の将来に関わる大きな問題です。

まちを活性化させるためには若者の力が必要であり、若者が玉城町で暮らし続けたいと思えることが重要です。

玉城町内の企業と情報交換を行い、ウィズ・アフターコロナの中で経済を回復させるための取組を進めるとともに、従業員の方にとって暮らし続けたいと思っただけの地域づくりを進めたいと考えています。

県としても、南部地域の活性化に対してさらなる取組の強化をお願いします。

新型コロナウイルス感染症の影響をふまえ、地域の活力を回復するため、教育旅行支援による誘客策等、南部地域が元気になるような取組を促進していただきありがとうございます。これをきっかけに観光振興に励むとともに、子どもたちが自分たちの住む地域の良さを知り、地域を大切にしたいと思えるように、取り組んでいきたいです。

三密を避けつつ、人と人とのつながりが希薄とならないように工夫をしながら、地方の良さを発信していきたいと思えます。

（知事）

県として、平成24年度に南部地域活性化局と南部地域活性化基金を設置し、南部地域の活性化に力を入れて取り組んでいます。

新型コロナウイルス感染症の拡大により、経済に大きな影響を受けている南部地域の元気回復のきっかけとするため、「南部地域体験教育旅行促進事業費補

助金」を創設しました。予算としては1,500人分を確保していますが、多くの学校が補助金の利用を希望しているため、予算を増額し、希望する学校全てを支援したいと考えています。

また、令和2年7月13日の三重県市長会及び町村会からの要望をふまえ、南部地域以外の北勢・中勢・伊賀地域において教育旅行を実施する場合に支援を行う制度を新しく創設し、令和2年7月20日から開始しました。

修学旅行等の機会を活用して、故郷に愛着を持つきっかけをつくることは、将来的な定住促進につながると考えており、南部地域を含め県内で修学旅行をしたいと希望する全ての方が制度を利用できるように、取組を進めたいと思います。

南部地域活性化基金については、定住促進の観点から令和元年度に見直しを行いました。引き続き予算を確保していきたいと思います。

人と人とのつながりを大切にするという観点では、関係人口づくりの取組として、「度会県」事業を行っており、令和2年7月21日現在で1,299名が度会県民に登録いただいています。コロナ禍の状況でも変わらない度会県民の「度会県とつながりたい」、「地域を応援したい」という気持ちを地域の力にするため、令和2年6月から「お家にいながらつながろう！3つの度会県プロジェクト」を開始しました。オンラインでの交流を活用しながら、南部地域をより豊かな地域にしたいと考えています。

## 対談項目2 七十二候の取組紹介

(町長)

新型コロナウイルス感染症により、テレワークを進めている企業があります。ワーケーションを検討している企業にまちの魅力をアピールできるようなプロモーションをしていきたいと思います。

(知事)

新型コロナウイルス感染症によりライフスタイルの見直しが求められる中、ワーケーションが注目されています。政府をあげてワーケーションにも取り組んでいく中で、県としても、力を入れてワーケーションの取組を始めています。

都市部の方々は、一定の利便性がある場所で地方での滞在を楽しむ傾向があり、玉城町は利便性と環境の充実度において武器が多く、ワーケーションに適していると思うので、積極的な取組をお願いします。